

## 事業評価書（事後評価）

### 1 政策評価の対象とした政策

宮内庁の広報活動の推進（事業評価）

### 2 担当部局名

長官官房秘書課，長官官房総務課

### 3 評価の実施時期

平成20年度から平成22年度

（平成21年度及び22年度にそれぞれ中間報告書を公表し，平成23年度に評価書を公表する。）

### 4 政策の目的等

#### （1）目的

宮内庁ホームページを充実し，皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めることを目的とした。

#### （2）必要性と背景

宮内庁ホームページは，天皇皇后両陛下を始め皇室の方々の御活動や皇室制度等の紹介を行うため，平成11年7月に開設した。

開設後，順次，掲載内容の増加に努めてきたが，ホームページの基本的なデザインを変えずにトップページへの新規項目の追加等を繰り返してきたため，開設から約10年が経過した段階で，トップページが縦スクロールの非常に長いものとなり，また，項目の整理の仕方が分かりにくくなり，閲覧者による必要情報の検索等の利便性，当庁職員によるデータ更新時の操作性の点で，改善の必要性が生じた。

また，近年提起されている高齢者や障害者への配慮，いわゆるウェブ・アクセシビリティについても，対応できているとは言い難い状況であった。

一方で，多様な国民の関心に応えていくためには，幅広い分野において様々な観点からのコンテンツを新設するなど，引き続き，掲載情報の更なる充実化を進めていく必要があった。

このようなことから，ホームページの改修を行い，閲覧者の利便性の向上と掲載情報の充実化の両立を図ることが不可欠となった。

#### （3）政策の概要

平成20年度は，閲覧者の利便性の向上に重点を置き，宮内庁ホームページのデザインの刷新，掲載情報の再分類・再整理，文字サイズ変更機能の実装等を行い，改修後のホームページを平成21年3月31日に公開した。

<具体的な改修点>

[ページデザイン等]

- ・トップページ及び配下ページのデザイン刷新（英語版含む）
- ・掲載情報の再分類・再整理（メニュー化）
- ・トピック的な写真をトップページに掲載（新たな行事等ごとに更新）
- ・経路情報の新設
- ・基本機能のヘッダー及びフッターへの集約化
- ・ページ書式の統一化

[アクセシビリティ]

- ・文字サイズ変更機能の実装
- ・音声読み上げ機能に対応するためのファイル改修（全ページ対象）

[更新情報の提供]

- ・RSS配信による更新情報の提供

[掲載情報の更新・追加ツール(職員用)]

- ・ページ作成用テンプレートの制作

平成21年度は、閲覧者の利便性の向上に引き続き取り組むとともに、多様なコンテンツを新設するなど掲載情報の充実化を行い、平成22年7月1日に公開した。

<具体的な改修点>

[英語版ホームページ]

- ・天皇皇后両陛下の御活動データページ等の翻訳、掲載
- ・用語集の新設

[掲載情報の充実]

- ・キッズページの新設
- ・天皇系図の新設
- ・書陵部所蔵資料ページの新設（日本語版ホームページのみ）
- ・三の丸尚蔵館収蔵作品及び過去の展覧会図録ページの新設
- ・皇室関連施設等の位置図の掲載
- ・皇居東御苑の年間開花カレンダーの掲載

[ユーザビリティ]

- ・ホームページのナビゲーションの新設
- ・よくある質問の新設
- ・用語集の再分類（日本語版ホームページのみ）

[アクセシビリティ]

- ・アクセシビリティ閲覧支援ツールの導入

[その他]

- ・天皇陛下御即位20年記念特集コンテンツの新設
- ・天皇皇后両陛下御結婚満50年記念特集コンテンツの新設

なお、平成20年度、21年度とも、ホームページの改修に当たっては、庁内における検討に加え、民間の調査会社による調査・分析（コンサルティング）及び国民を対象とした改修前のアンケート調査を実施し、改修に反映させた。

## 5 政策評価の観点

### ① 必要性

皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めるという目的に照らして、本事業が必要であったかという必要性の観点から評価を実施

### ② 有効性

本事業の実施により、皇室に関連する情報の提供が効果的に行われるようになったかという有効性の観点から評価を実施

### ③ 効率性

本事業の実施が効率的であったかという効率性の観点から評価を実施

## 6 政策効果の把握の手法及びその結果

### (1) アクセスログ解析の実施

平成20年度に行ったホームページの改修効果の検証等のため、民間の調査会社に依頼し、アクセスログの解析を実施した。

[解析の対象及び結果]

平成20年4月から11月までのログデータと平成21年4月から11月までのログデータ

#### ① 全般

指 標		リニューアル前	リニューアル後	前後比
訪問者数	①	2,438,198	2,273,854	93.3%
ページビュー数	②	8,541,392	10,358,513	121.3%
平均PV数	②÷①	3.5	4.6	130.0%
平均滞在時間	③	0:02:29	0:03:19	133.6%
直帰数	④	1,276,688	984,247	77.1%
直帰率	④÷①	52.4%	43.3%	82.7%

#### ② 閲覧ページ数ごとの訪問者数の分布

閲覧ページ数	リニューアル前		リニューアル後		前後比
	訪問数		訪問数		訪問数
	①	①÷合計	②	②÷合計	②÷①
1PV	1,276,688	52.4%	984,247	43.3%	77.1%
2PV	386,224	15.8%	338,172	14.9%	87.6%
3PV	202,193	8.3%	210,205	9.2%	104.0%
4PV	129,169	5.3%	143,754	6.3%	111.3%
5～6PV	151,013	6.2%	186,838	8.2%	123.7%
7～9PV	115,106	4.7%	152,252	6.7%	132.3%
10～14PV	83,043	3.4%	117,947	5.2%	142.0%
15～24PV	58,863	2.4%	84,269	3.7%	143.2%
25～49PV	28,481	1.2%	44,899	2.0%	157.6%
50PV以上	7,418	0.3%	11,271	0.5%	151.9%
総 計	2,438,198		2,273,854		93.3%

③ 滞在時間ごとの訪問者数の分布

閲覧ページ数	リニューアル前		リニューアル後		前後比
	訪問数		訪問数		訪問数
	①	①÷合計	②	②÷合計	②÷①
滞在していない	1,293,148	53.0%	1,004,805	44.2%	77.7%
1分未満	469,340	19.2%	468,715	20.6%	99.9%
1分～2分未満	173,409	7.1%	189,625	8.3%	109.4%
2分～3分未満	99,212	4.1%	114,201	5.0%	115.1%
3分～5分未満	112,729	4.6%	135,204	5.9%	119.9%
5分～7分未満	65,083	2.7%	79,611	3.5%	122.3%
7分～10分未満	59,321	2.4%	73,819	3.2%	124.4%
10分～15分未満	57,285	2.3%	70,249	3.1%	122.6%
15分～20分未満	34,571	1.4%	42,610	1.9%	123.3%
20分～30分未満	43,820	1.8%	54,959	2.4%	125.4%
30分～40分未満	14,138	0.6%	18,808	0.8%	133.0%
40分～50分未満	6,273	0.3%	8,366	0.4%	133.4%
50分～60分未満	3,560	0.1%	4,686	0.2%	131.6%
1時間～2時間未満	5,048	0.2%	6,493	0.3%	128.6%
2時間以上	1,261	0.1%	1,703	0.1%	135.1%
総計	2,438,198		2,273,854		93.3%

(2) アンケート調査の実施

平成20年度及び21年度に行った改修効果の検証等のため、民間の調査会社に依頼し、アンケート調査を実施した。

[アンケートの方法及び結果]

日本語版ホームページについて、平成23年3月15日から17日に、都内在住の国民100名を対象に実施。

設問1	あなたは過去に宮内庁のホームページをご覧になったことがありますか？	
回答	よく見ている	2%
	時々見ている	5%
	何回か見たことはある	18%
	見たことがない	73%
	分からない	2%

設問2	改修前のホームページと比較して、トップページを見ただけで、宮内庁ホームページにどのような情報が掲載されているか、イメージできますか。	
回答	イメージできる	24%
	なんとなくイメージできる気がする	61%
	イメージできない	6%
	どちらとも言えない	9%

設問 3	改修前のホームページと比較して、情報は分かりやすく分類されていると思いますか。	
回答	分かりやすく分類されている	75%
	分かりやすく分類されていない	1%
	どちらとも言えない	19%
	分からない	5%

設問 4	改修前のホームページと比較して、知りたい情報に容易にたどり着けますか。	
回答	はい	69%
	いいえ	2%
	どちらとも言えない	19%
	分からない	10%

設問 5	改修前のホームページと比較して、宮内庁ホームページの情報について、最も思ったことはどういうことですか。	
回答	非常に役に立つ	5%
	もっと詳しく知りたくなった	19%
	参考程度にはなる	59%
	役に立たない	1%
	興味がわからない	13%
	分からない	3%

設問 6	新たに掲載した「宮内庁ナビ」について、どう思いますか。	
回答	非常に役に立つ	17%
	参考程度にはなる	64%
	役に立たない	7%
	分からない	12%

設問 7	新たに掲載した「よくある質問」について、どう思いますか。	
回答	非常に役に立つ	30%
	参考程度にはなる	53%
	役に立たない	7%
	分からない	10%

設問 8	新たに五十音別・目的別に整理した「用語集」について、どう思いますか。	
回答	非常に役に立つ	30%
	参考程度にはなる	60%
	役に立たない	5%
	分からない	5%

設問9	新たに掲載した「キッズページ」について、どう思いますか。	
回答	非常に役に立つ	39%
	参考程度にはなる	43%
	役に立たない	9%
	分からない	9%

設問10	改修後の宮内庁ホームページをご覧になってどのような印象をお持ちになりましたか。また、改善すべき点などのご意見があれば自由にご記入ください。（自由回答）	
回答	<p>[肯定的な評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見やすくなった（24件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・改修後の方がすっきりしていて分かりやすく親しみを感じる。</li> <li>・トップページが見やすくなった。</li> <li>・改修後は改修前に比べるとかなり見やすくなった気がする。</li> </ul> </li> <li>○親しみやすくなった（5件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・皇室が親しみやすく感じた。</li> </ul> </li> <li>○興味がわいた（4件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページがあることを知って皇室に興味がわいてきた。</li> </ul> </li> <li>○掲載情報について（4件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ずいぶん細かいことまでよく網羅されている。</li> <li>・広範囲にわたり、よくまとまっている。</li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・改修前のよりも公式サイトらしくなったと思う。</li> <li>・高齢者にも配慮した大きめのサイズの文字は好感が持てる。</li> </ul> </li> </ul> <p>[否定的な評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堅苦しい感じが否めない。</li> </ul> <p>[その他提言・意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文字について（7件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が多すぎるような気がする。</li> <li>・文字データよりボタンやアイコンを利用したらシンプルになると思う。</li> </ul> </li> <li>○写真について（7件） <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を少し増やした方がよい。解説とともに写真があるとさらに分かりやすい。</li> <li>・安易に画像をコピーできないようにするなど、セキュリティを強化してもらいたい。</li> <li>・一番最初のメニュー画面は写真をメインにしてもっと単純にした方が興味を持てるのではないか。</li> <li>・もっとプライベートな写真を見たい。</li> </ul> </li> </ul>	

	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お知らせや新着情報が一番に目に入るように、左側ではなく、上部に配置したらどうか。</li> <li>・トップページの情報量を少し減らしてもよいかもしれない。</li> <li>・もう少し、陛下、皇太子殿下のコメント等を頻繁に載せて欲しい。</li> </ul>
--	--

## 7 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

評価書の作成に当たり、学識経験者等からの支援・助言などは特に得なかった。

## 8 政策評価に使用した資料等

- ① アクセスログの解析結果
- ② 宮内庁ホームページに関するアンケート調査の結果
- ③ ホームページのバリアフリー化の推進に関する調査結果報告書（平成22年6月 総務省行政評価局）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/31396\\_02.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/31396_02.html)

## 9 政策評価の結果

### (1) 必要性の観点からの評価

アクセスログの解析結果（6（1）①参照）によると、平成20年度から21年度にかけて、訪問者数の減少が見られるが、それ以上に、直帰数が大きく減少している。訪問者数から直帰数を除いた数を、実質的な閲覧者数であると考えれば、その数値は、むしろ1,161,510から1,289,607に増加している。

このことは、逆に言えば、改修前の段階においては、宮内庁ホームページ上に訪問者の求める情報、あるいは、関心を喚起するような情報が掲載されていたとしても、トップページのデザインの使いにくさ等のために当該情報に到達する前に離脱していた訪問者がそれだけ多かったということの意味するものと考えられる。そして、宮内庁ホームページの改修は、そのような状況のある程度改善することができたものと考えられる。

また、平成21年8月から22年6月にかけて、総務省行政評価局により、各府省等34機関のホームページ（合計1,514ページ）を対象に、日本工業規格のウェブコンテンツに関する「高齢者・障害者等配慮設計指針」への対応状況に関する調査が行われた。宮内庁ホームページについては、改修後の46ページが調査対象となったが、必須18項目及び推奨21項目の合計39項目のうち、1項目以上に対応していないページが24ページあるとの指摘がなされた（内訳は、全39項目61個の点検事項について、1個に対応していないものが17ページ、2個に対応していないものが3ページ、3個に対応していないものが2ページ、6個に対応していないものが2ページ。）。

34機関のホームページ全体の非対応率（調査対象のページ数に対し非対応のページ数が占める割合）が93.6%であったところ、宮内庁ホームページについては非対応率が52.2%であり、なお改善の余地はあるものの（指摘を受けたページについて、一部は改善措置済みであり、他のページについても、今後、改善を行う予

定。)、平成20年度及び21年度の改修の成果として、バリアフリー化をある程度進めることができたものと考えられる。

宮内庁ホームページによる情報発信を意味あるものとするためには、まず、掲載している情報を訪問者に閲覧してもらうことが必要となるので、直帰数の低減、バリアフリー化の推進を図る本事業は、皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の発信に努めるという当初の目的に照らして、必要性の高いものであったということができる。

## (2) 有効性の観点からの評価

アンケート結果によると、改修前のホームページと比較して、情報が分かりやすく分類されているという回答が75% (6 (2) 設問3参照)、知りたい情報に容易にたどり着けるという回答が69% (6 (2) 設問4参照)となっている。

また、新規に掲載したコンテンツのうち、「よくある質問」については、「非常に役に立つ」という回答が30%、「参考程度にはなる」という回答が53%、「用語集」については、「非常に役に立つ」という回答が30%、「参考程度にはなる」という回答が60%、「キッズページ」については、「非常に役に立つ」という回答が39%、「参考程度にはなる」という回答が43%となっている(6 (2) 設問7, 8, 9参照)。これらのコンテンツは、皇室のご公務、制度、伝統文化、関連施設など、皇室について幅広く基礎的な事項を紹介し、解説するものであるが、いずれもおおむね肯定的な評価を獲得していると言える。

また、アクセスログの解析結果(6 (1) ①参照)によると、平成20年度から21年度にかけて、平均PV数(訪問者1人当たりの閲覧ページ数)が3.5から4.6に増加し、平均滞在時間が2分29秒から3分19秒に増加している。さらに、閲覧ページ数ごとの訪問者数の分布(6 (1) ②参照)によると、ページ数が2以下の訪問者数は減少し、ページ数が3以上の層においては、ページ数が多い層になるほど訪問者数の増加率が高くなるという傾向がある。また、滞在時間ごとの訪問者数の分布(6 (1) ③参照)によると、滞在していない、又は、1分未満の訪問者数は減少し、1分以上の層においては、滞在時間が長い層になるほど訪問者数の増加率が高くなるという傾向がある。これらのことは、改修の前後で、宮内庁ホームページがじっくりと活用される度合いが高まったということを示していると言える。

以上を踏まえると、本事業は、宮内庁ホームページの閲覧者の利便性の向上と掲載情報の充実化の両立を図るものであり、さらに、一般による宮内庁ホームページの活用度を高めるという効果を生じているので、皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めるという当初の目的に照らして、有効性の高いものであるということができる。

## (3) 効率性の観点からの評価

平成20年度、21年度とも、ホームページの改修に係るホームページ制作会社との契約については一般競争入札を実施し、経費の節減を図った。

なお、改修により、掲載情報の分類の仕方が明確に整理され、各ページの様式が統一化されたため、今後、宮内庁ホームページを管理するに当たり、掲載情報の更新・追加の作業を効率的に行うことができるようになった。



以上のことから本事業は、皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めるという当初の目的に照らして、効率性の高いものであるといえることができる。

#### **(4) 今後の課題**

改修後のホームページは、民間のウェブサイト設計・診断会社のウェブユーザビリティ評価でも高い評価を得ているところ、インターネットをめぐる環境は今後とも変化し続けていくと考えられるので、閲覧者の利便性の向上、バリアフリー化については、そのような変化にも対応していくことができるよう、民間のウェブサイト設計・診断の結果を分析するなど更なる配慮を続けていくこととし、現在評価されている点は今後も維持できるようにしたい。

また、宮内庁ホームページの掲載情報については、写真の掲載など、アンケートに寄せられた意見（6（2）設問10参照）等を参考にしつつ、更なる充実化を図っていくこととしたい。

なお、今回のアンケート結果によると、宮内庁ホームページを「見たことがない」という回答が73%となっていた（6（2）設問1参照）ので、周知方法の工夫を検討することとしたい。

## 事業評価書（事後評価）

### 1 政策評価の対象とした政策

I Tを活用した正倉院宝物の紹介（事業評価）

### 2 担当部局名

正倉院事務所，書陵部

### 3 評価の実施時期

平成22年度

（平成23年度に評価書を公表する。）

### 4 政策の目的等

#### （1）目的

正倉院宝物の調査研究資料を広く一般に紹介する正倉院ホームページ及び正倉院宝物管理システムを改修し，掲載情報を充実させることにより，正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図ることを目的とした。

- ・現在紹介中の正倉院宝物約250点を約3,000点まで充実させるとともに，画像データの追加掲載を容易に行えるシステムを構築する。
- ・システムのランニングコストを10%削減する。

#### （2）必要性と背景

正倉院事務所が収蔵する正倉院宝物は，古代から永い時を超えて守り伝えられてきた文化財であり，世界的な至宝として知られている。

しかし，その公開については，保存の観点から限定的なものとならざるを得ず，従来，国民が宝物に接しようとする時，毎年秋に奈良国立博物館において開催されている正倉院展を鑑賞するほかは，高価な美術書籍を購入して閲覧する以外に方法がなかった。

このような制約を克服するために，平成15年に正倉院宝物紹介ページ（旧HP）を開設し，インターネットを通じて広く内外諸国から宝物を鑑賞することができるようにした。このことは，専門家，一般を問わず，好評を博したが，事後の改善点として，掲載する宝物の点数，情報，写真の増加，「正倉院紀要」の掲載，正倉院展や関連図書の紹介などの要望が寄せられた。

このうち，「正倉院紀要」の掲載については，順次実現（平成20年度までに既刊分すべてを掲載）したが，今回，機器が老朽化したこともあり，これを機に，前記要望にも応えるべく，システムの全面改修を行うこととした。

### (3) 政策の概要

掲載する宝物写真の点数、画質、宝物関連のデータなど、提供する全ての内容について見直しを行い、情報提供の充実化、利便性の向上等を図る一方、データの追加掲載が容易に行えるシステムを構築することで、今後の情報発信の基盤を整え、さらには運用等経費面においてもコストを下げることにした。

なお、リニューアル後の正倉院ホームページは、平成23年1月11日から公開している。

#### 【システム改修の概要】

画像を含む大容量のデジタル資料を統合することによって宝物の保存管理を支援する機能である「正倉院宝物管理システム」（内部用）の改修と、同システムをベースに、利用者の関心が集まる宝物の写真や基本的なデータを親しみやすいユーザーインターフェースを介してインターネット上に公開する機能である「正倉院宝物公開システム」（正倉院ホームページ）のリニューアルを行った。

#### ① 「正倉院宝物管理システム」（内部用）改修の要点

- ・データ構成や各データベースのリンクの再設定、登録済みデータの校正を行うことで、データの一元的管理を強化した。
- ・検索機能、写真登録・所在管理機能の向上により、データ更新を容易なものとし、日々の業務とシステムをより密接に対応させることを可能とした。
- ・登録した全データをCSVファイルにて出力可能とし、今後のシステム改修やデータ移行を容易なものとした。
- ・職員が「正倉院宝物公開システム」（正倉院ホームページ）の宝物・紀要などの更新用データを容易に作成できるように改修し、正倉院宝物公開システムを定期的に更新できるようにした。

#### ② 「正倉院宝物公開システム」（正倉院ホームページ）リニューアルの要点

- ・トップページの機能強化  
下記の新機能をトップページにまとめ、利便性の向上を図った。
  - 「新着情報」：随時更新し、各種のお知らせを行う。
  - 「写真使用について」：従来、写真使用申請者へ郵便やFAXで提示していた申請書類等をPDFで掲載する。
  - 「分類別メニュー」：分類ごとの宝物リストに直接アクセスすることができるようにする。
- ・「ご利用方法」ページの新設  
正倉院ホームページの見方、使い方を一箇所にまとめたチュートリアルページを新設した。
- ・「宝物検索」の充実  
従来、北倉の宝物238点を対象としていたが、新たに、中倉・南倉の宝物201点を加えた（平成23年1月11日時点）。さらに、宝物の基礎的な情報について項目を増やし、写真をより高画質のものに変更し、拡大表示も可能とした。また、写真の登録番号も表示し、写真使用申請時の参考となるようにした。

- ・「自動鑑賞」機能の充実

旧HPの「主要宝物自動鑑賞」について、写真をより高画質とし、対象も北倉から中倉、南倉まで拡大した。さらに、「主要宝物自動鑑賞」は、正倉院事務所で選び出した主要な宝物50点のスライドショーであるが、それとは別に、分類や検索結果のリストからも、スライドショーに移行できる「自動鑑賞」機能を新設し、利用者のニーズに即して宝物を鑑賞できる選択肢を増やした。

## 5 政策評価の観点

### ① 必要性

正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図るという目的に照らして、本事業が必要であったかという必要性の観点から評価を実施

### ② 有効性

本事業の実施により、正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進が図られたかという有効性の観点から評価を実施

### ③ 効率性

本事業の実施が効率的であったかの観点から評価を実施

## 6 政策効果の把握の手法及びその結果

### (1) 正倉院ホームページの開設時及びリニューアル前後のアクセス件数の比較

本事業は、正倉院ホームページを通じて正倉院宝物の紹介を行うものであるから、その効果を把握するため、以下の項目についてデータの集計を行った。

#### ① トップページへのアクセス件数

年 月	件 数	1万件	2万件	3万件	4万件	5万件	6万件	7万件
平成15年 4月	50,149	[Progress bar for 50,149]						
5月	15,482	[Progress bar for 15,482]						
6月	12,708	[Progress bar for 12,708]						
~~~~~								
平成22年10月	27,811	[Progress bar for 27,811]						
11月	17,435	[Progress bar for 17,435]						
12月	7,519	[Progress bar for 7,519]						
平成23年 1月	69,268	[Progress bar for 69,268]						
2月	42,232	[Progress bar for 42,232]						
3月	46,696	[Progress bar for 46,696]						
4月	18,580	[Progress bar for 18,580]						

※平成15年4月1日に開設。平成23年1月11日にリニューアル。

※平成23年1月は11日以後、4月は14日午前4時までの数値である。

② リニューアル後のアクセス件数詳細

年 月	1日当たり平均		月 合 計			
	Visits	Pages	Sites	Visits	Pages	Top
平成23年 1月	423	11,186	7,221	8,899	234,914	69,268
2月	374	4,692	8,712	10,476	131,380	42,232
3月	366	3,313	9,581	11,355	102,718	46,696
4月	307	3,328	3,817	4,300	46,602	18,580

※平成23年1月は11日以後、4月は14日午前4時までの数値である。

※Sites …… HPを初めて訪れた人の数（1年以内の同一IPからのアクセスはカウントしない）

Visites…… HPを訪れた人の数（30分以内の同一IPからのアクセスはカウントしない）

Pages …… 表示されたページ数

Top …… トップページへのアクセス数

**(2) アクセス件数の分析**

① トップページへのアクセス件数について

リニューアル後のアクセス件数は、平成23年1月11日のリニューアルから4月14日（午前4時まで）までの約3か月間で176,776件に上っており、正倉院ホームページ開設後の推移（平成15年4月から6月までで78,339件）やリニューアル直前の推移（平成22年10月から12月までで52,765件）と比べてはるかに多い。

正倉院ホームページ開設時には、報道を通じての紹介があり、平成15年4月のアクセス数が突出しているのは報道による影響も大きいと考えられるが、今回のリニューアルに際しては、特に報道による紹介はなされておらず、純然たるインターネット環境の中での告知のみであったが、高い数値を示すこととなった。

② リニューアル後のアクセス件数詳細について

リニューアル後の1人当たりのページビュー（PagesをVisitsで割った数値。正倉院ホームページに訪れた方が何ページ遷移したかを示す。）を見ると、平成23年1月が26.4、2月が12.5、3月が9.0、4月が10.8となっている。

**7 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項**

本事業の効果及び今後の検討課題を把握するため、正倉院ホームページのリニューアルについて、以下の学識経験者に意見を聴取した。

- |              |          |
|--------------|----------|
| 東京大学史料編纂所    | 山口英男 教授  |
| 国立大学法人奈良教育大学 | 大山明彦 准教授 |
| 奈良大学文学部文化財学科 | 三宅久雄 教授  |
| 国立歴史民俗博物館    | 仁藤敦史 教授  |
| 奈良国立博物館      | 湯山賢一 館長  |
| 九州国立博物館      | 森田稔 副館長  |

## 【学識経験者の意見の概要】

### (1) 評価できる事項

- ①ここ数年の内に進化を遂げたコンピューターシステムによる情報伝達手法をいち早く取り入れ、この度更に改訂された正倉院事務所の取り組みは高く評価できる。
- ②今回のリニューアルデザインは親しみやすさと同時に品格があり、より洗練されたイメージとなったことは、ビジュアル世代の活用が期待されるので評価できる。
- ③正倉院の由来、宝庫、宝物についてなどの解説は大変分かりやすく市民の理解を深めることができると思う。
- ④正倉院宝物の図版は、高価で少数の専門図書を利用しなければならず、近年では正倉院展図録などで公開されてきているが、一般はもちろん専門家でも、宝物の画像探索と利用には困難を伴うのが常である。正倉院HPでは宝物からの一元検索を簡単に行うことができ、かつ、今回更に多量の画像の公開が進んだことは大いに評価できる。
- ⑤技法による分類検索が可能となり、さらに詳細なキーワード指定によって、技法を始め材質、形式ほかの特徴からの検索範囲が大幅に広がった。本格的なデータベースとしての学術利用に大きく一步を踏み出したと言える。
- ⑥宝物写真の点数が増加され、対象も北倉のみから中倉・南倉が加えられており、また宝物の詳細説明につき、従来の分類、整理番号、寸法、概説に加えて、材質、製作技法等の内容が増え、深化している。
- ⑦宝物の写真画質が以前のホームページより上がり、詳細がよく分かる。
- ⑧正倉院展などに見に来られない人たちにとっても、正倉院宝物に触れられる良いツールになっていると思われる。
- ⑨写真に管理番号が表示されているので、指定しやすく良い。
- ⑩「自動鑑賞」という手法については、平成15年度からの同ホームページより引き続き使用されているが、この手法は、これまでに正倉院宝物に接する機会があまりなかった一般のためには、大変有効な手段であると思う。文化遺産の教育、普及のための視点から高く評価できる。
- ⑪正倉院事務所の研究職員を始め、我が国を代表する研究者による正倉院宝物の、直近の研究成果が掲載されている「正倉院紀要」の内容公開は、この刊行物が市販されていないので、広く一般にとっても研究者にとっても、誠に有意義である。
- ⑫正倉院宝物に関する基礎データや各種の画像データのほとんどは宮内庁が管理しており、それらは国内のみならず世界的な学術的価値を有している。WEBでの公開は瞬時にして世界的なデータ利用を可能にするもので、このことは他の文化財に比べて格段の意義を持っている。

### (2) 今後さらに期待する事項

- ①取り上げられている写真資料の内に、幾つか同様のものが見られるので、今後同じ宝物でも違った視点から撮影した写真と差し替えることで、更に多くの貴重な写真資料をご呈示いただきたい。
- ②宝物の科学的な手法による分析結果や、美術工芸分野の専門家等による専門的な観察による視点からなる宝物の詳細な部分写真等を、更に加えていただきたい。
- ③宝物や写真の増加などが分かるように、更新履歴を表示して欲しい。
- ④正倉院紀要のページの画質がもう少し上がると良い。

- ⑤正倉院宝物の全貌を知るためにも、一点ごとだけでなく分類ごとに簡単な解説があってもよい。
- ⑥宝物の解説に、過去の正倉院展出陳の年号が記されると、なお身近に感じられ、正倉院宝物観覧への具体的な期待を持つことができる。
- ⑦正倉院宝物がいかにして千有余年も守り伝えられてきたかについての説明は「正倉院について」にあるが、現在はいかにして守り伝えているかについての具体的な説明も必要である。
- ⑧「正倉院事務所の仕事」についても具体的な紹介があると、宝物を守り伝える意義がより身近に感じられ、一般的理解がより深まる。
- ⑨宝物模造の制作は刊行物並びに正倉院展や一般の展覧会などで紹介されてはいるが、本HP上においても、その意義や成果について積極的に披露し、日本の伝統材料並びに工芸技術を守り伝える努力への一般的理解を得る必要がある。
- ⑩著名な宝物であっても収録されていないものがあり、啓蒙的な観点からみても正倉院展に出陳されたような宝物はなるべく早く補足されることが望まれる。
- ⑪少なくとも宝物名の英語表記は必要である。

## 8 政策評価に使用した資料等

- ① 正倉院ホームページへのアクセス件数
- ② 学識経験を有する者の知見

## 9 政策評価の結果

### (1) 必要性の観点からの評価

正倉院宝物については、保存の観点から公開は限定的なものとならざるを得ないが、一方で、国民の理解と関心を増進するためには、可能な手段において情報提供をできる限り行い、正倉院宝物に接することへの需要に応じていくことが不可欠である。

この点、今回聴取した学識経験者の意見においても、正倉院展などを見に来ることができない人たちがいることや、正倉院宝物の図版を見るためには高価で少数の専門図書を利用しなければならないこと、正倉院宝物についての研究成果が市販されていないことなどの指摘があるが、その上で、同ホームページのリニューアルによる情報提供の充実化について、有意義であったとの評価がなされている（7（1）④、⑧、⑪、⑫参照）。

また、正倉院ホームページへのアクセス件数を見ると、開設時よりも今回のリニューアル時の方がはるかに高い数値となっている（6（1）①、（2）①参照）が、このことは、開設以降、正倉院宝物に接する手段として同ホームページの存在が広く認識されており、同ホームページによる情報提供に対する需要が高い状態にあったことを裏付けるものと考えられる。

本事業は、まさにそのような正倉院宝物に接することへの需要に応えるためのものであり、正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図るという当初の目的に照らして、必要性の高いものであったとすることができる。

### (2) 有効性の観点からの評価

正倉院宝物に対する国民の理解と関心を効果的に増進するためには、正倉院宝物に

関する情報提供につき、利用者が利用しやすい形で行うことが必要である。また、提供する情報の内容についても、利用者は一般の方から専門家まで様々であるということ的前提に、多様な理解・関心の度合いに応じるようなものとする必要がある。

今回聴取した学識経験者の意見においては、ホームページのデザインについて親しみやすさと同時に品格がある（7（1）②参照）、正倉院宝物に接する機会があまりなかった方に正倉院宝物を紹介する手段としても有効である（7（1）⑧、⑩参照）、宝物の検索を簡単に行うことができる（7（1）④参照）、宝物に関する情報（宝物の範囲、個別の情報、写真の点数・画質）が充実・向上している（7（1）⑥、⑦参照）、世界的な学術的価値を有するデータの公開であり格段の意義を持っている（7（1）⑫参照）等の評価がなされている。

また、正倉院ホームページへのアクセス件数を見ると、1人当たりのページビューがほぼ10を超えており（6（1）②、（2）②参照）、このことは、利用者がホームページのコンテンツをある程度活用していることを裏付けるものであると考えられる。

以上より、今回の正倉院ホームページのリニューアルは、利用のしやすさと、一般の方から専門家までの理解・関心に配慮した内容となっており、また、実際に利用者に活用されているものと考えられるので、本事業は、正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図るという当初の目的に照らして、有効性の高いものであると言える。

### （3）効率性の観点からの評価

旧システムは、平成14年度に導入（運用開始は平成15年4月1日）したものであるが、導入後8年が経過したことによりハード機器の老朽化が進み、既に代替部品がなくなるものもあり、維持管理費用が高額になりつつあった。平成22年12月までの運用経費の合計は103,020千円（運用期間93か月）となっており、1月当たりに換算すると約1,108千円であった。

これに対し、新システムは、平成22年度から4か年国庫債務負担行為で総額29,928千円（運用期間48か月）で契約しており、1月当たりに換算すると約624千円となる。

システムのランニングコストについては、当初10%の削減を目標としたが、過去の経費と今回の調達結果を月額で比べると、40%以上の削減となっているので、本事業は、効率性の高いものであると言える。

### （4）今後の課題

正倉院ホームページで紹介する正倉院宝物の点数については、写真フィルムのデジタル化の状況等を踏まえて、3,000点を目標としている。平成22年度においては、238点に201点を追加したのみとなったが、システムの改修によりデータの追加を容易に行うことができるようになったので、毎年度100点から200点の追加を行い、将来的には3,000点を目指すこととしたい。

また、今回聴取した学識経験者の意見のうち、部分写真の追加（7（2）①、②参照）については、定期的に追加する準備が整ったので、順次対応していくこととしたい。宝物名の英語表記は必要であるとの指摘（7（2）⑪参照）については、将来的



に英語版ホームページを構築することも含めて、今後検討していくこととしたい。

さらに、正倉院宝物に関する情報提供の在り方についての様々な意見等を踏まえ、より一層充実した内容にしていくための検討を行い、国民の利便性の向上と正倉院宝物に対する理解と関心の増進に努めることといたしたい。